

大牟田市立上内小学校

1 本校のESDの特徴

(1) 「持続発展教育」のねらい

身近なふるさとの自然や環境との関わりを通して、他の人と積極的に関わりながら環境保全のための実践に取り組む態度を養い、持続可能な社会の創り手を育成する。

(2) 「持続発展教育」の推進方針

- 環境教育を基軸とし、地域の自然や人材との共同によるESDを推進する。
- 各教科・道徳・総合的な学習の時間・外国語活動その他の教育活動を有機的に関連させる。
- 児童の体験・体感を重視し、探求や実践を重視する参加型アプローチとなるように努める。
- 活動の場において、児童の自発的な行動を引き出すことができるような体験活動を行う。
- 新たな地域人材(リソースパーソン)の発掘と協働による地域に根ざしたESDを推進する。
- ESDに関する資料を収集・蓄積し、活用を図るとともに、その取り組みを積極的に発信する。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 育てたい能力・態度

- | | |
|------------------|--------------|
| ①批判的に考える力 | ⑤他者と協力する態度 |
| ②未来像を予測して計画を立てる力 | ⑥つながりを尊重する態度 |
| ③多面的、総合的に考える力 | ⑦進んで参加する態度 |
| ④コミュニケーションを行う力 | |

※本年度の重点 ③④⑥

(2) 主な活動

- 〈1年生〉「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」
(⑥⑦：生活科)
- 〈2年生〉「はるのかみうち」「なつのかみうち」「あきのかみうち」「ふゆのかみうち」
(⑥⑦：生活科)
- 〈3年生〉「汐井川を調べよう」 (②③⑥：総合的な学習の時間)
- 〈4年生〉「リサイクルについて知り実行しよう」 (③④⑥⑦：総合的な学習の時間)
- 〈5年生〉「米作りから学ぼう～上内の米作りの特徴～」
(①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間)
- 〈6年生〉「米作りから学ぼう～気仙沼と広がる活動・深まる絆」
(①②③④⑤⑥⑦：総合的な学習の時間)

3 特徴的な活動事例

〈第6学年 総合的な学習の時間 単元名「米作りから学ぼう」〉

(1) 目標

- 地域の方との米作りを通して、地域の方の願いや努力を知り、地域への愛着を持つとともに、東北大地震の被災者に思いを巡らし、主体的に活動することができる。

(2) 単元構成

- ①昨年度の活動を振り返り、上内米の良さや気仙沼とのつながりについて、5年生に伝え、活動の見直しをもつ。

②田植え、稲刈り、脱穀などを体験する。

③気仙沼の復興の現状について調べ、分かりやすく伝える方法を考えて、5年生と協力しながら収穫した「上内っ子米」を販売する。

④米作りでお世話になった方を招き、感謝祭を開き、学習のまとめをする。

(3) 子どもたちの様子

子どもたちは、地域の水環境委員会の方々の協力のもと、種もみまき、田植え、稲刈り、脱穀、しめ縄作りの体験を行った。昔ながらの方法と今の機械での方法で田植えや稲刈り、脱穀を体験させていただき、違いを実感することができた。

また、5年生は上内の米作りの特徴を、6年生は3年前から交流を続けている気仙沼の復興の現状を調べ、分かりやすく伝えるために模造紙等にまとめた。

収穫した米は、花プラス館で販売し、収益金を義援金として交流している気仙沼市小原木小学校に送った。販売する際に、上内米の特徴や気仙沼の復興についてまとめた資料を掲示し、購入してくださった方や地域の方に伝えた。

最後に、感謝の会では、お世話になった水環境委員会の方や地域の方をお招きして、しめ縄作りを教えていただいたり、羽釜で収穫したお米を炊いたりした。さらに、学習してわかったことを発表し、感謝の気持ちを伝えた。



【田植え体験】



【稲刈り体験】



【米の販売】



【しめ縄作り体験】

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・地域の方との米作りを通して、地域の方の努力や思いを知り、地域への愛着を深めることができた。

○課題

- ・地域、他校への発信の工夫。
- ・交流相手の小原木小学校が統廃合になるため、来年度からの交流の仕方の模索。